

2024年度 全体会



2024年度のはぐるま全体会が、4月10日多摩市民館大会議室で行われました。

今年は午前中を利用しての開催で、コンパクトですがその分、情報量として適切だったか、という課題も感じております。

もっと、小さい単位で一人ひとりの声を聴きたいというご意見も伺っています。

また、みらぼになって敷居が高くなりふらっと立ち寄りにくいかな、という感想もいただきました。みなさんと双方向のコミュニケーションをとっていくためにいろいろ試行していこうと思っておりますが、みなさんのご意見もぜひお聞かせください。

さて、この日は初めに仲間自治会からの発表がありましたが、昨年を作成した「なかまのねがい」のまとめを最初に読み上げました。そもそも、昨年の「ねがい」は仲間リーダーで話し合う「仲間事務局会議」の中の意見で、職員に対する不満や要望が多くなってきたので、一度自分たちの言いたいことをまとめよう、としたものです。内容は、自分たちでできることは自分たちでやる、という仲間目標があるから、それに向けてがんばっているが、職員の都合で変更があったり、職員中心でものごとが決められていないか見直してほしいというものでした。職員としては、あらためて仲間集団の自己決定とは何だろうということを考える機会となりました。

今年は全体会の約2か月前からこの「ねがい」を見直して、現在はどうであるかを仲間事務局会議で話し合い、その回数は10回を数えました。いきなり総括的な傾向や風土の変化などをつかむことは難しいので具体的な事象、実際に起こったことをとにかくたくさん抽出しました。そしてそれぞれについて、どのように感じるか、どのようにするべきかの意見を出し合い、それをまとめるとどういうことになるのか、というように徐々に観念的な概念に高めるという手順を踏みました。事務局会議の仲間もまだ限定的な考え方を脱せないこともありますが、積み重ねの中で自分を含めた仲間全体の利益や不利益、権利といったものに寄り添えるようになってもらいたいと期待しています。

みらぼ施設長 金田圭二

はぐるま

NO.123

2024年5月24日

社会福祉法人
はぐるまの会
広報委員会

川崎市多摩区菅馬

場 1-19-24

TEL

044-946-1308

災害時避難計画について

【能登半島地震の状況について・障害のある人はいま】（全国障害者問題研究会・みんなのねがいより抜粋）

『2024年1月1日（月）16時10分に発生した能登半島・北陸の大地震・4月1日時点の能登半島地震の被害状況ですが、死者244人（関連死15人）安否不明2人、避難者は7733人（1次避難4153人、1・5次避難101人、2次避難3479人）となっております。』

しかし、県内外の親戚宅等避難7735人、車中泊避難139人、自宅避難4956人を加えると、さらに多くの人が今までのあたりまえの生活が奪われた影響を受けています。仮設住宅の要望6610戸に対して着工5131戸、完成1643戸（32%）となっております。断水約7860戸で、珠洲市は復旧に5月末までかかる予定です。家屋被害は7万5430棟となっております。甚大な被害のあった奥能登4自治体（輪島市、珠洲市、能登町、穴水町）の人口は計約5万3700人（2024年3月）と人口流出が続いています。高齢化率は平均51%

（2023年10月）です。

そして、障害者手帳保持者は約4500人、避難行動要支援者名簿の掲載人数は約9500人となっております。』

◇きょうさんんの活動について

きょうさんんは、発災後、石川、福井、新潟、富山の会員状況を把握し、ホームページに掲載、自然災害支援基金への募金活動呼びかけをしました。2度の先遣隊、3月・4月と七尾市和倉町に支援センターを設置し、本格的な支援活動を開始しています。5月から日本障害フォーラム（JFD）の支援活動に合流し、長期支援に入ります。

この間、行ってきている支援を紹介します。精神障害のあるAさん兄妹への支援です。Aさん兄妹は40代で、震災前は障害福祉サービストつながっていませんでした。2人で古いアパートで生活していました。地震の時は自宅にいて、すごい揺れでびっくりされたそうです。避難所に避難した時に、社会福祉協議会の相談員がAさんのことを「気になる人」として気づき、自宅訪問したら、震災前から室内が片付けられていない状況の中で生活されていたことがわかりました。相談員がきょうさんん会員の職員に相談したことから私たちの支援につながりました。

川崎市では災害が発生し、又は災害が

発生する恐れがある場合に避難行動に支援が必要な災害時要援護者に対し、災害時の具体的な避難方法や安否確認の円滑化などを目的として、災害時個別避難計画の作成を行います。

障害サービス利用者のうち「独居等」の方で、次の①あるいは②に該当する方に対し、優先度を定めて作成を進めています。

- ① 障害区分が4から6の方（区分6の方については、独居等の要件を除く）
- ② 移動に関するサービス（移動支援・同行援護・行動援護の利用者）

支援センターでも、優先順位の高いかたから、随時避難計画を作成しています。

この避難計画は2019年の台風19号による多摩川の洪水をきっかけに策定されました。その時、第2ホームは農園に避難しましたが、今後の中野島地域の仲間の避難場所はみらぼになります。みらぼでは限定的ではありませんが、地域の方の受け入れ可能であり、50人分の非常食を用意しています。いつ起こるかかわからない災害に対して様々な想定をして計画をたてていきます。仲間や地域の方が孤立することなく、安全に避難できるように考えていきます。

ご家族の皆様にはご協力をお願いします。とがあるかと思いません。その際はよろしくお願ひ致します。支援センター 本岡

さくらホーム ホーム活動に



さくらホームのホーム活動は、毎回、職員が1〜2か月前に、行く先や食べ物屋さんをいくつか候補に挙げて、仲間同士相談して、仲間が選択して参加できるようにしています。

普段、ヘルパー外出や一人で行かないようなところ、普段食べに行かないようなお店を選んでいきます。いつもとちよつとだけ違う「非日常」を感じ、楽しいひとときを過ごしています。これまで祝日の活動に参加していないことが多かった仲間が参加し、最近では全員で楽しく活動しています。

今年のゴールデンウィークのホーム活動は、4月29日と5月6日の2日間、活動しました。

4月29日(月)は横浜市中区にある「横浜市電保存館」と「横浜シンボルタワー」に行きました。「横浜市電保存館」では、昭和47年頃まで横浜市内を走っていた市電の車体の展示、模型や資料を観たり、運転シミュレーターで市電を運転したりしました。

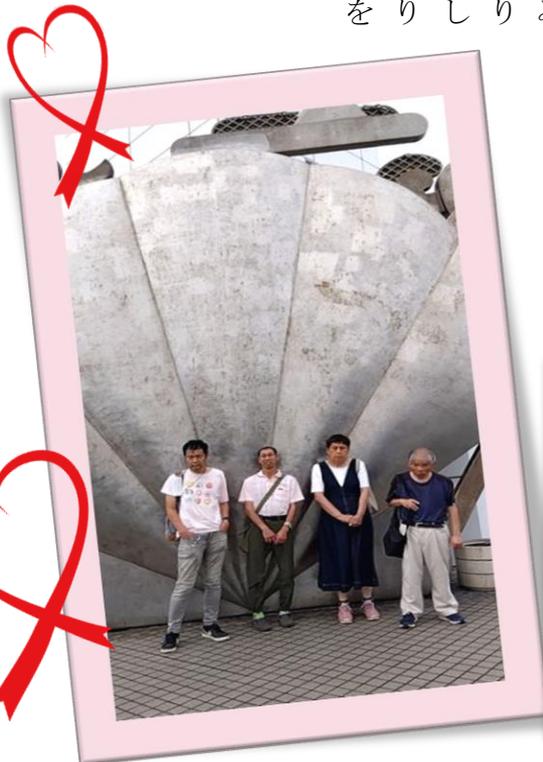
次に「横浜シンボルタワー」こちらは、横浜港の玄関口にあり海の交通の要衝で往来する船の信号機の役割をしている灯台です。



高さ約30mあり、階段を使えば実際の上まで上がれます。みんなで長い階段を登り、上から景色を眺めました。近くには、海外クルーズ中の巨大客船が停泊していました。遠くには、千葉県房総半島、東京湾に浮かぶ「うみほたるパークングエリア」も見えました。

5月6日(月)はゴールデンウィーク最終日のため、連休中の疲れを癒すため、ホームでゆっくりすることにしました。昼食は、みんなで外食をして、ホームで苺パフェ作りをしました。毎週、手の込んだ調理実習をしているので、初めてとは思えない仕上がりで、喫茶店で食べるような豪華なパフェをみんなで食べました。美味しかったです

さくらホーム責任者 石田賢一



※会の中でご質問いただいた、食費のことやグループホームの移転については、あらためてご報告いたします。

※看護師からのお願いがありました。ご家族で仲間の通院に行っていた折には、受診の内容や、医師の所見、処方されたお薬（薬書のコピー）の情報を作業所もしくはホームまでお寄せいただきますようよろしくお願いいたします。



今回は午前中だけの全体会だったため、午後からは、マラソン大会の壁新聞づくりをしました。

多摩市民館のホールともう一部屋借りられたので、仲間は2チームに分かれることができました。そのおかげで、密にならずにとっても落ち着いて過ごすことができました。それぞれに活躍したマラソン大会の場面を切り取った写真を用意すると、自分の写真を見つけて、テキパキと模造紙に貼っていきます。イラストや文字を書くのが得意な仲間は、戸惑うことなく、ペンを持ちます。

こういう時の、仲間は真つすぐに模造紙に向かいます。そして、みんなそれぞれの特性を理解していて、なんとなく、役割分担し適材適所が自然と活かされる場面です。

職員があれこれと世話を焼かなくても、ざっくりとしたテーマで壁新聞を書き上げる仲間たちは、凄いなと思う瞬間です。

出来上がった壁新聞は、みらぼの2階に掲示されていますが、写真が大好きな仲間にとって、癒しのスペースになっています。皆様もみらぼにお越しの際は是非、ご覧になってください。

はぐるま広報委員会

